

# 「国内クラウド需要動向調査（2020年版）」について

調査概要・弊社ご紹介

2020.7

Confidential

**MMRI**

株式会社MM総研 Moving Mobile & Mobility Forward

## 2019年度版の主な実績

- 2013年から継続実施。
- 国内の多くの事業者が「国内クラウド需要動向調査」を購入、さまざまな用途で利用頂いております。

### 【2019年度の販売実績】

クライアント	主な用途
国内大手クラウドベンダ A社	クラウド事業の戦略策定に活用
ネットワーク事業者 B社	自社のクラウド接続ネットワークの戦略策定、セミナー資料として活用
コンサルティングファーム C社	政府調達の世界調査資料として活用
総合商社 D社	投資判断のための基礎資料として活用

その他、販売実績多数。

# 2019年度版の主な実績

- 同調査の結果は多くのメディアから取り上げられています。

## 国内クラウドサービス市場、18年度は1兆9000億円 今後5年で約2.3倍に

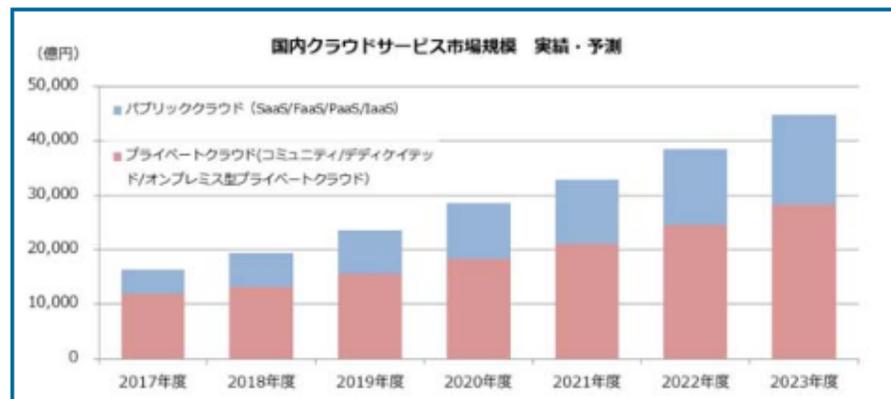
© 2019年06月11日 20時36分 公開

[ITmedia]



調査会社のMM総研は6月11日、国内クラウドサービス市場の現状と予測を発表した。2018年度の市場規模は前年度比18.1%増の1兆9422億円で、うちプライベートクラウド市場が18.1%増の1兆3257億円、パブリッククラウド市場が34.1%増の6165億円だった。企業が主要なシステムやアプリケーション基盤をPaaS・IaaSに移行させる動きが目立っており、市場拡大につながっているという。

この動きは今後も進み、クラウドサービス市場は23年度に4兆4754億円に達する見込み。プライベートクラウド市場は2兆8000億円、パブリッククラウド市場は1兆6490億円に成長すると予測している。ただ、オンプレミス型プライベートクラウドの成長率は鈍化する見通しだ。



<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/1906/11/news121.html>

# 調査実施概要

## 【調査対象サービス】

### ■パブリッククラウド（サービスモデル別）

SaaS (Software as a Service) / FaaS(Function as a Service)/ PaaS(Platform as a Service)  
/IaaS(Infrastructure as a Service)

### ■プライベートクラウド（実装・配置モデル別）

コミュニティクラウド / デディケイテッドクラウド / オンプレミス型プライベートクラウド

※ このほか、ベアメタルクラウド（ベアメタルサーバー）やホスティングサービス（専用ホスティング・共用ホスティング・VPS）なども同時に調査を実施。

## 【2020年度版調査概要】

回答件数：予備調査（クラウドサービスの認知、利用・検討状況などについて）：39,115社

※情報システム、ネットワークの管理・運用担当者または決裁・選定担当者

本調査（クラウドサービスの利用実態、投資動向など）：1,741社（従業員規模を5階層に分け、各階層で300社を確保）

※クラウドサービスの導入者・導入検討者

調査方法：Webアンケート調査

調査期間：【アンケート調査期間】2020年5月1日～5月7日

分析内容：■クラウドサービスの市場規模・予測(2018年度～2024年度)

■クラウドサービスにおける利用・検討サービス、選定ポイント、導入目的

■クラウドサービスの利用用途

■企業におけるクラウドサービスおよびICTへの投資動向 など

\*「国内ホスティングサービスに関する需要動向調査」の結果もオプションとして追加可能

価格・形式：¥300,000（税別）

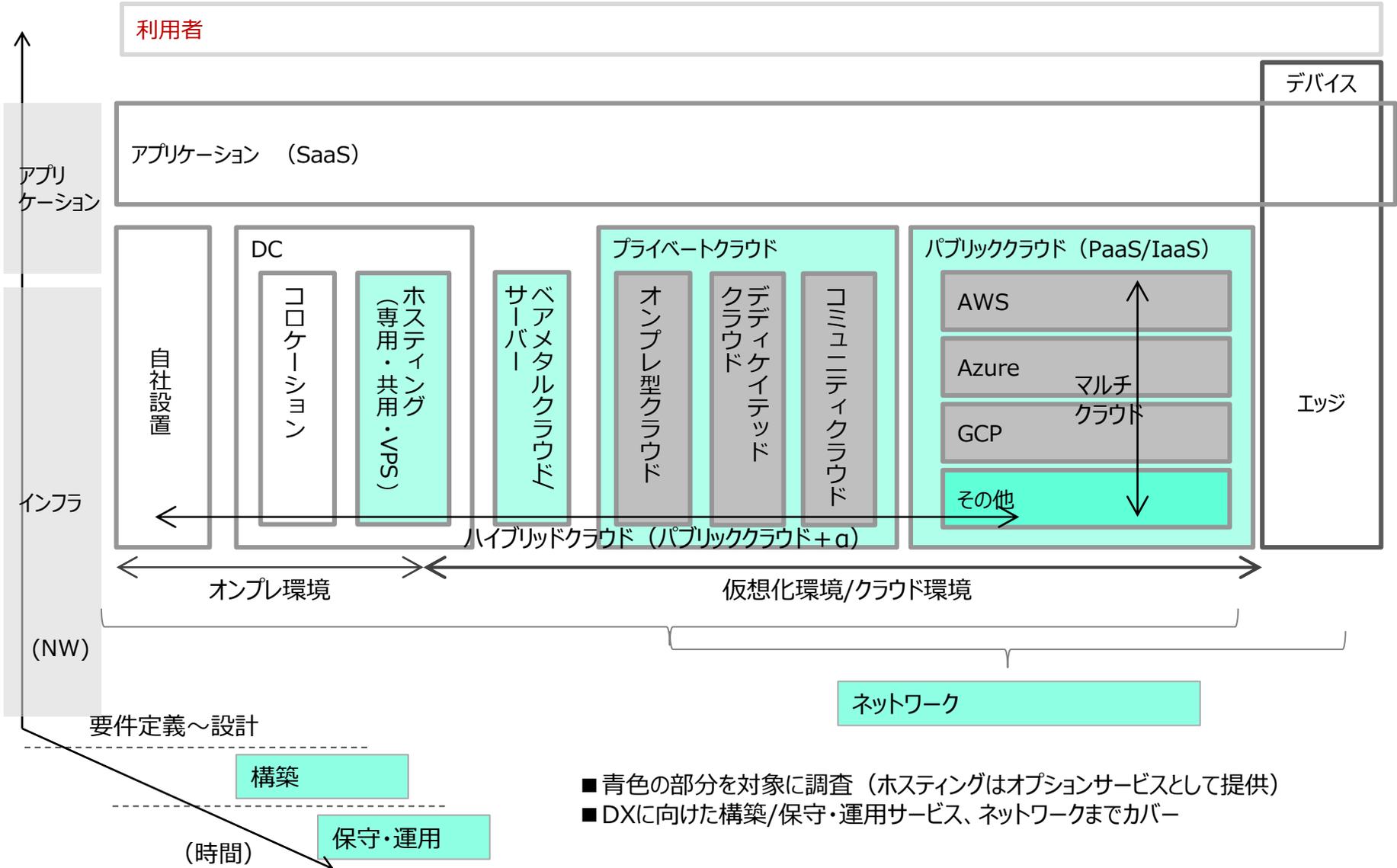
\* PDFデータ+簡易製本セット、198ページ(表紙等含む)

\*「国内ホスティングサービスに関する需要動向調査」の結果を含む場合には¥350,000円（税別）

発売日：2020年7月31日

# 調査実施概要

【調査対象】 …クラウドサービスに関する主要項目を網羅したレポート



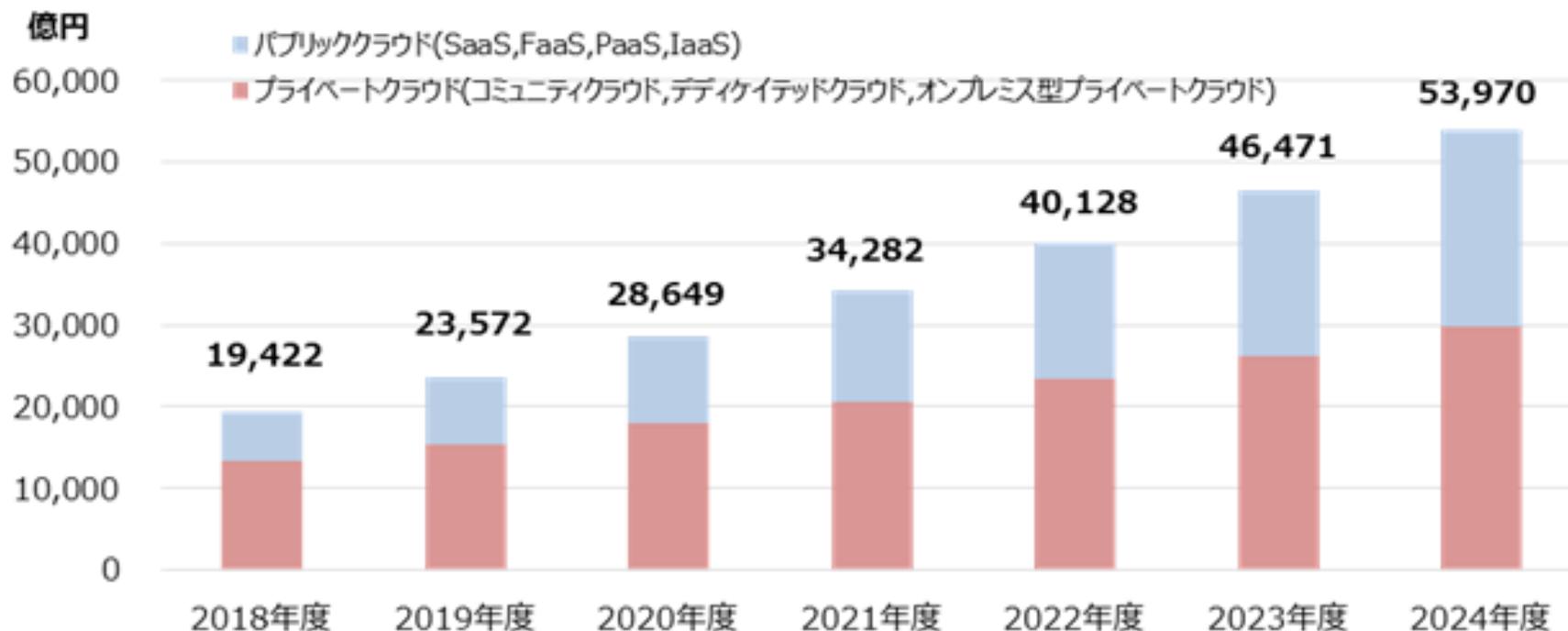
# 目次と説明

目次		説明	当パート頁数
II	1.市場規模	• 2018年度から2024年度までの市場規模の推移	3
	2.概況・トピックス	• 今年の調査の主な結果	4
III	1.クラウドサービスの認知度	• 各サービスの認知度に関する情報（サービス別・従業員別・業種別）	10
	2.クラウドサービスのイメージ(理解)	• 各サービスのイメージ・理解に関する情報（サービス別）	4
	3.クラウドサービスの検討・利用状況	• 各サービスの検討・利用状況に関する情報	2
	4.クラウドサービスの導入状況	• 各サービスを導入した企業の時期・導入目的・選定ポイントなどに関する情報 • 利用サービスに関する情報（FaaS,PaaS,IaaS,デディケイテッドクラウド）	28
	5.クラウドサービスの導入予定時期/利用しない理由	• 各サービスの導入を検討する企業の時期・導入目的・選定ポイントなどに関する情報 • 検討サービスに関する情報（FaaS,PaaS,IaaS,デディケイテッドクラウド） • クラウドサービスを利用しない理由	29
	6.クラウド構築・運用に関する考え方	• 新規システム構築に考え方、構築システムのインフラ・OS構成に関する情報 • 構築・運用サービス事業者に関する情報（PaaS・IaaSのみ、利用/検討別） • 構築・運用サービス事業者の評価ポイントに関する情報	19
	7.クラウドサービス事業者のイメージ	• 主なクラウドサービス事業者に対しユーザーが持つイメージに関する情報	1
	8.SaaSの利用用途	• SaaSの種類・利用用途に関する情報	2
	9.クラウドサービス別の利用用途と使い分け	• 各サービスの利用用途に関する情報（FaaS,PaaS,IaaS,デディケイテッドクラウド） • 各サービスへの移行形態（PaaS,IaaS） • AWS/Azure/GCP/IBMCloud別の利用用途と比較、各サービスへの移行形態	42
	10.パブリッククラウドへの移行パターン/移行できない機能	• 各サービスの移行形態に関する情報 • クラウドサービスに特に移行したい機能/移行できない機能	7
	11.クラウドサービスの機能の重要度	• 各サービスの機能の重要度（PaaS,IaaS,デディケイテッドクラウド,オンプレクラウド）	8
	12.仮想マシン台数	• 仮想マシン使用台数（PaaS,IaaS,デディケイテッドクラウド,オンプレクラウド）	2
	13.クラウド接続におけるネットワーク	• クラウドに接続するネットワークに関する方法	5
	14.年間利用額	• 各サービス別の年間利用額に関する情報	5
	15.今後、投資額を増やす分野	• 各サービスで投資額を増やしたい分野・機能に関する情報	9
	16.全社のICT投資額	• 回答企業全体のICT投資額に関する情報	1

# 主な調査結果（市場規模）

## 【クラウドサービスの市場規模・今後5年間の予測】

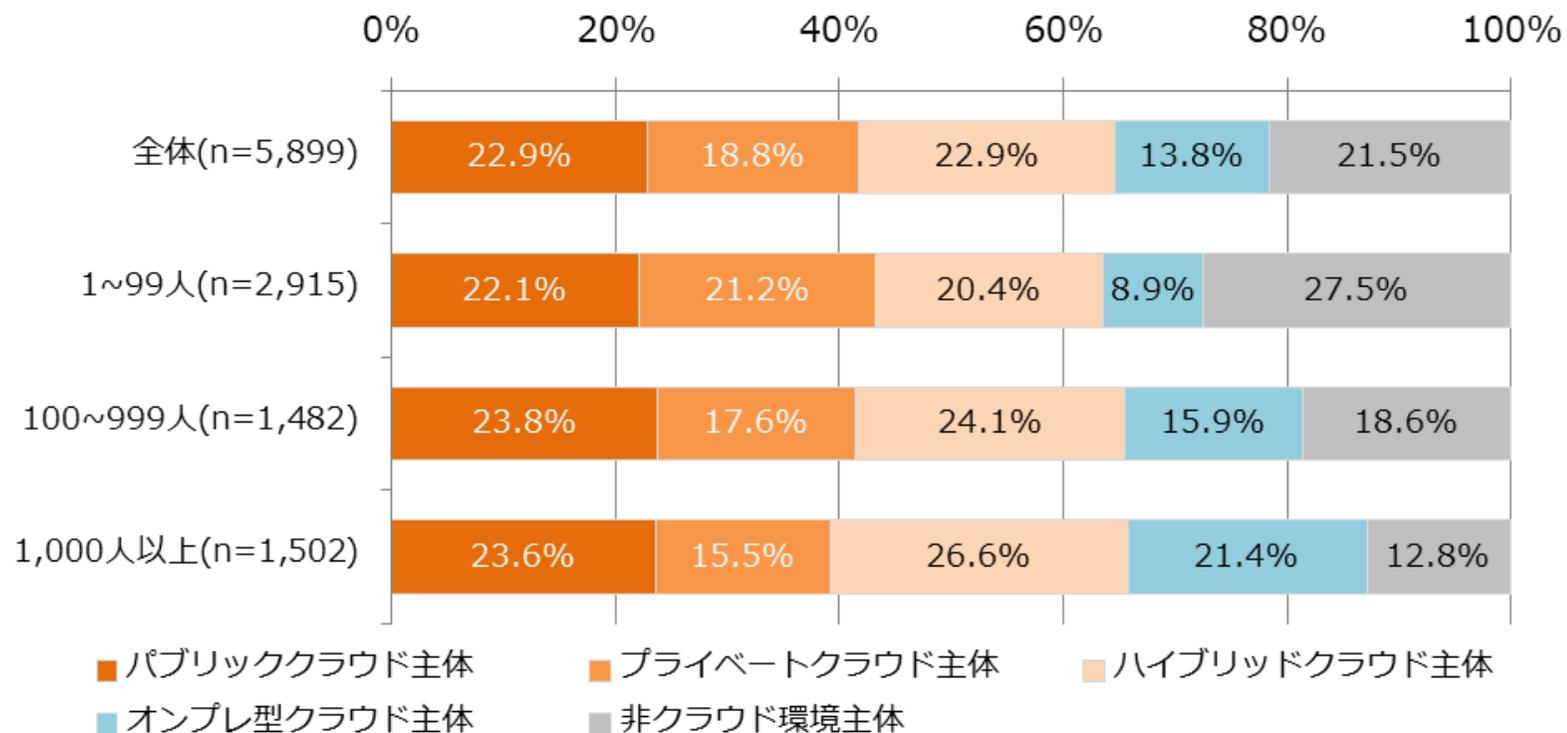
- 2019年度の国内クラウドサービス市場全体の規模は2兆3572億円。対前期比で21.1%増。
- 2024年度には、5兆3970億円と予測。2019年から2024年度までの5期のCAGRは18.0%となる。



## 主な調査結果（クラウドサービスの定着化）

- コスト削減を目的とした新規導入から、クラウドを基本としたシステム開発へ

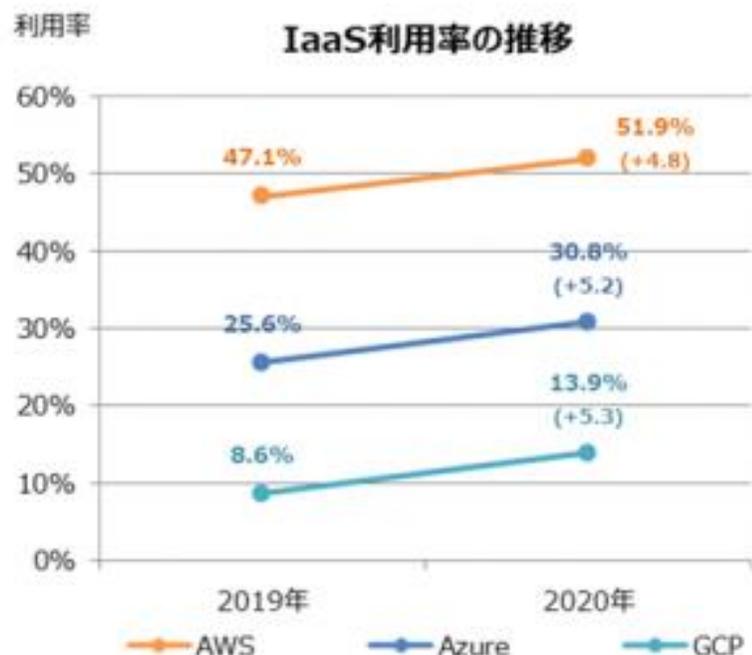
### 【システム構築の考え方】



## 主な調査結果（マルチクラウドの進展）

- 主要ブランドの定着、マルチクラウドによるサービス使い分け

### 【PaaS・IaaSの利用率推移（主要3ブランド）】

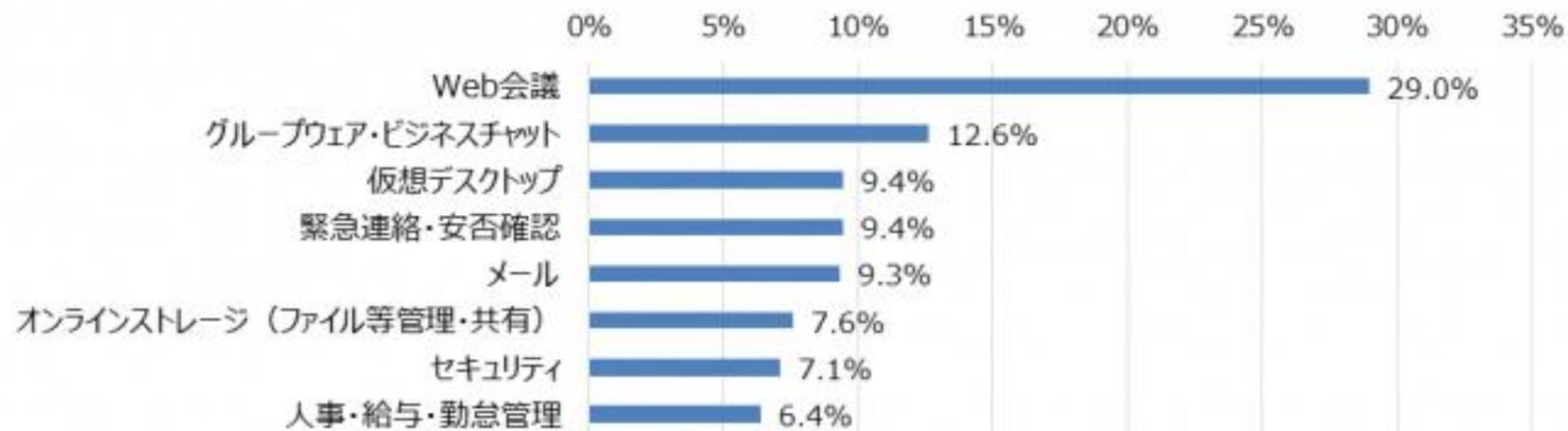


## 主な調査結果（新型コロナの影響）

- コラボレーション系SaaSの急速な利用拡大

### 【新型コロナで新規導入/増強したSaaS】

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い増強したSaaSの種類（複数回答、n=815）



## 弊社のご紹介



# MM総研とは

社名	株式会社 MM総研
設立	1996年6月
資本金	2,000万円
所在地	東京都港区芝公園2丁目6番3号 芝公園フロントタワー5F
代表者	代表取締役所長 関口 和一
事業内容	●マーケティング・リサーチ業務の実施
	●コンサルティング業務
	●月刊ICT情報誌「MM Report」発行
	●各種セミナー、展示会の実施

## 関口 和一（せきぐち わいち）略歴

### ●MM総研 代表取締役所長

1982年一橋大学法学部卒

日本経済新聞社入社、編集局流通経済部配属。

1988年フルブライト客員研究員として米ハーバード大学留学。1989年英文日経キャップ。1990年から1994年まで米ワシントン支局特派員。産業部電機担当キャップを経て1996年より2019年まで24年にわたり編集委員を務めた。

2000年から15年間は論説委員として主に情報通信分野の社説を執筆。

2006年より法政大学大学院客員教授、2008年より国際大学グローコム客員教授。2009-2012年はNHK国際放送のニュースコメンテーター。2012-2013年はBSジャパン『NIKKEI×BS Live 7PM』メインキャスター、2015-2019年は東京大学大学院の客員教授を務めた。

2019年（株）MM総研代表取締役所長に就任。日本経済新聞社でも引き続き客員編集委員として記事の取材や執筆、「世界デジタルサミット」など国際シンポジウムの企画・運営にあたる。

総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）評価専門調査会専門委員、情報通信研究機構（NICT）アドバイザリーコミッティ委員、JPCERT/CC事業評価委員会委員長なども務める。著書に『パソコン革命の旗手たち』（日本経済新聞社）、『情報探索術』（同）、共著に『未来を創る情報通信政策』（NTT 出版）、『日本の未来について話そう』（小学館）などがある。



- MM総研はICT分野を強みとした市場調査・コンサルティングサービスを提供するシンクタンク
- 情報収集力、情報発信力を活用し、お客様の事業を支援します



マーケティング・リサーチ



事業戦略  
コンサルティング



プロモーション支援



出版

- B2C, B2B隔たりなくICTに係る市場規模や出荷台数データを保有
- B2CではBB回線数、モバイル回線数、スマートフォン出荷台数、クラウドサービ、IoT、AIの市場規模などを網羅 B2Bでは

### 個人市場領域

- ブロードバンド/ISP市場
  - 四半期単位
  - 事業者シェア・競合分析と市場予測
- MNO/MVNO市場
  - 四半期単位
  - 事業者シェア・競合分析と市場予測
- スマートフォン/PC・タブレット市場
  - 四半期単位
  - 市場規模・台数シェア・需要予測

### 法人市場領域

- クラウド市場調査
  - 市場規模、プレイヤー整理
  - 認知率等トップオブマインドシェア
  - 事業者シェア・競合分析と市場予測
- IoT導入状況調査
  - 市場規模、導入状況
  - 市場ニーズ・ユースケース分析
- 人工知能市場規模
  - 市場規模
  - 市場分析(PEST分析)、提供価値 等



- 『MM Report』は、MM総研の独自調査など業界の最新情報をお伝えしている会員制月刊誌
- 市場規模データやスタートアップ情報、各種業界トレンドなどを掲載

- ◆誌名 : 「MM Report」
- ◆発刊日 : 毎月25日発行
- ◆発行部数 : 約500部

【主な購読企業】

- 大手ITベンダー
- 大手キャリア
- 大手ディーラー/販売店
- 外資系ベンダー
- 証券会社
- その他

【主なコンテンツ】

- データ **MM総研の研究員が独自に収集・分析したICT市場の最新市場データ／市場動向を掲載**
- 対談 **日本を代表する経営者と、所長の関口が対談を通じ、ICT業界の現状と将来を語ります**



## 表彰制度「MM総研大賞」

- ICT分野の発展を目指した表彰制度「MM総研大賞」
- ICT分野の市場、産業の発展を促すきっかけとなることを目的に、MM総研が2004年に創設した表彰制度2019年度が16回目の開催
- 優れたICT技術で積極的に新商品、新市場の開拓に取り組み、スマート社会の発展に貢献している企業を表彰

- 日本経済新聞など4紙の一面広告で受賞企業を発表



※授賞式を東京・港区 シェラトン都ホテルで開催（2020/9/17）





---

Moving **M**obile & **M**obility Forward